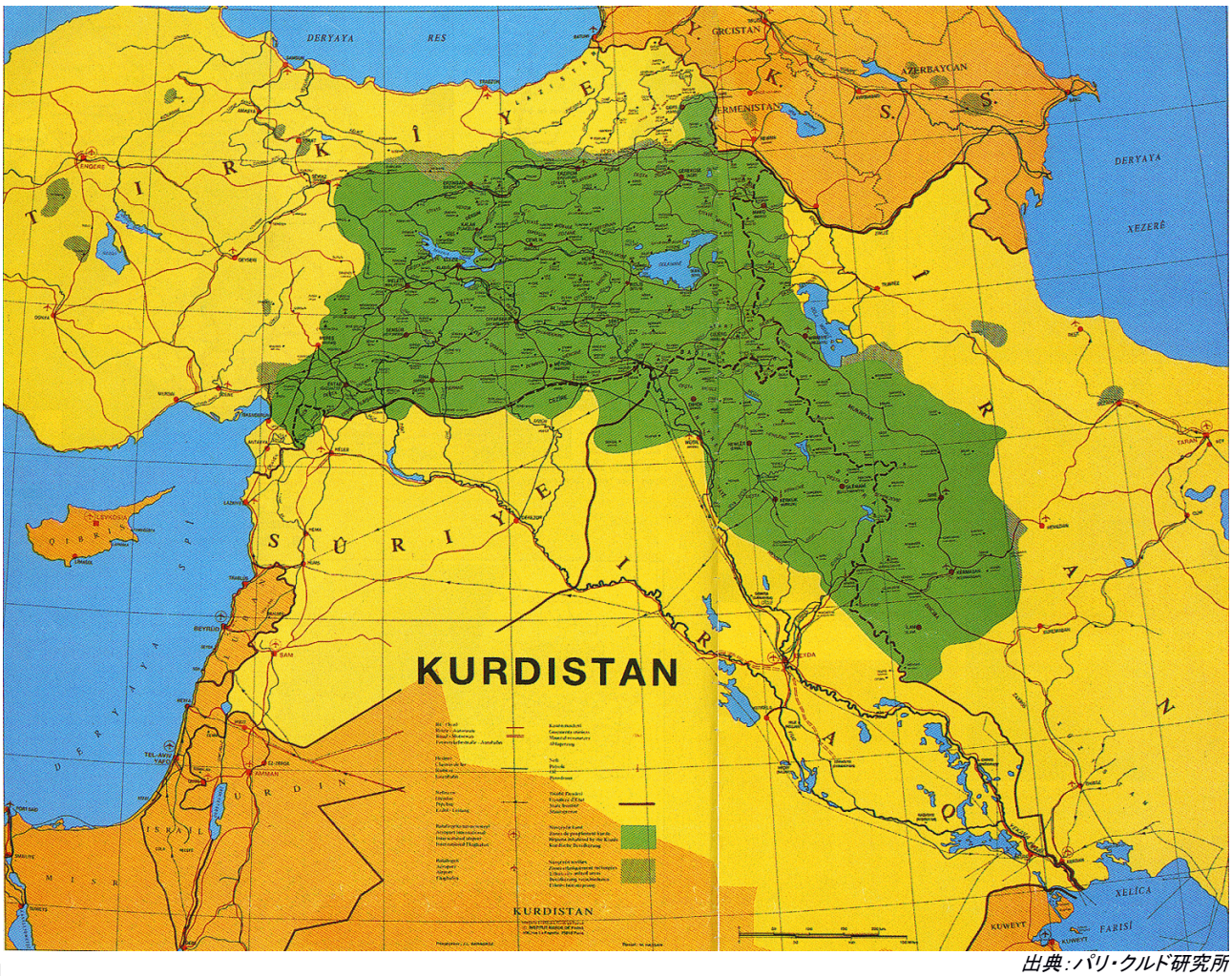
2019 年 4 月クルディスタン報告書

Reporta Kurdistanê Avrîlê 2019’ê



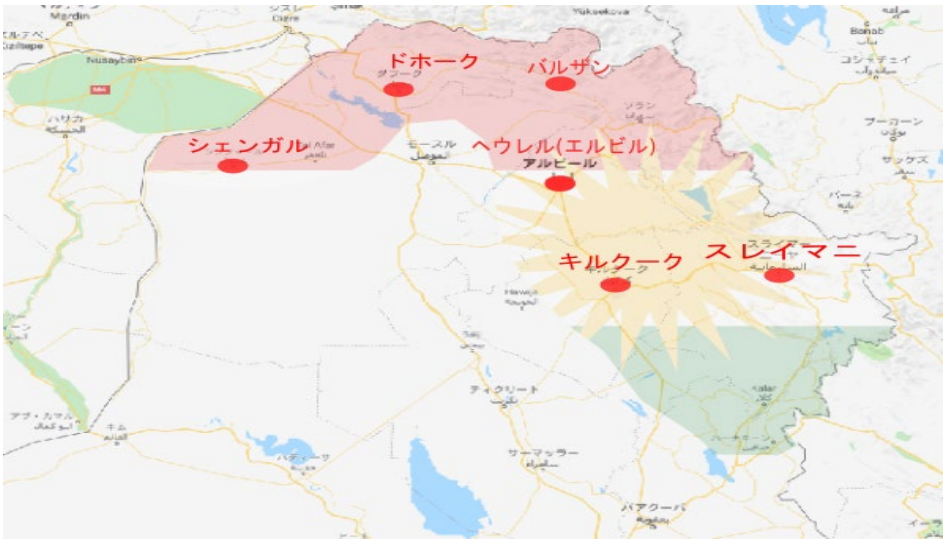
μ

出典：パリ・クルド研究所

一般社団法人　日本クルド友好協会

南クルディスタン（イラク北部クルディスタン地域）

Başurê Kurdistanê



政治動向

ようやく進み始めた新政権樹立

クルディスタン地域政府（KRG[1]）の新政権樹立は、先月においても方向性が定まることはなかった。昨年 9 月前のクルディスタン地域議会選挙以来、今月初めの時点で実に 183 日もの月日が浪費された。進展と言えばクルディスタン民主党（KDP[2]）が有力野党ゴランを自陣営に引き入れたことだ。ゴランは上述の選挙の時点では KDP の選挙不正を告発し野党を形成する構えであった。クルディスタン地域の 2 大勢力、クルディスタン愛国者連盟（PUK[3]）が参加しない限り決定的は合意形成はない。PUK は一度は歩み寄る姿勢を見せたものの、結局土壇場で合意への期待を覆した。しかし今月は光明が見えてきたようだ。

PUK 報道官は 1 日、クルド系メディアに対し KDP は PUK の要求を受け入れる段階にないと述べた[1 日、NRT]。彼によれば KDP は PUK を政府の意思決定に参加させないようにしている。ここまでは前月同様の流れだが、ここから PUK は合意に前向きな姿勢へと転じる。KDP はいい加減 PUK に妥協をする必要を認識したということだろう。PUK 報道官は 3 日、KDP 側と最終的な合意は近いと発言した[3 日、ルダウ]。報道官は、PUK を指導するコスラト・ラスルにマスード・バルザニが電話し共通の理解に達したとのエピソードも明かした。バルザニはヘウレルのブックフェアにおいて、もはや忍耐の時間は終わったとし、合意の段階に達していると発言した。KDP、PUK 両党は 8 日、月末までに合意をまとめることを確認した[8 日、ルダウ]。

---

1 英語名 Kurdistan Regional Government の略。クルド語では、Serokayetiya または Hikûmeta(前者がクルド語、後者がアラビア語で政府の意) Herêma(地域) Kurdistanê。参照：クルディスタン地域政府大統領府公式サイト

2 英語名 Kurdistan Democratic Party の略。クルド語では、Partîya(党) Demokrata(民主) Kurdistan を略して PDK。 また単に Partî とも呼ばれる。

3 英語名 Patriotic Union of Kurdistan の略称。クルド語では、Yekîtiya(統一) Nîştmanîya(民族主義者) Kurdistan を略して YNK。 また Yekîti とも呼ばれる。

最終的な合意を棚上げにしつつも、ヘウレルにおいて KDP のネチルワンと PUK のコスラト・ラスルが会談し握手を交わしたことは月内の合意に大きな希望を抱かせた。

クルディスタン地域議会は 10 日、大統領法の改正決議を見送った[10 日、クルディスタン 24]。PUK が新たに副大統領職に準ずるポストの新設を要求し、それをゴランが拒否したことが事の顛末として伝えられている。KDP が抱き込んだゴランが逆に PUK との妨げになるという事態を招いた。PUK 政治局員は既に副大統領職の増設並びにそのうち一つを PUK メンバーが占めることで KDP と合意していると明かした[15 日、NRT]。これはゴランが拒否した案であり、今度は KDP とゴランの交渉が紛糾することが予想された。しかしゴランも 23 日、副大統領職の増設を認め KDP 合意した[23 日、ルダウ]。ゴラン所属議員はこれ以上新政権樹立交渉を遅らせることはできないと妥協に転じたことを認めた。KDP 政治局長ファジル・ミラニは 23 日、PUK との合意を妨げる障害はもはやなく週内に大筋で合意はまとまると発言した[23 日、NRT]。PUK 政治局員のサアド・ピラは 28 日、KDP との間に懸案事項は無く後は議会において協定文書に署名するのみと発言した[28 日、NRT]。PUK は

▸野党動静

新政権樹立交渉が順調に進む中、野党の動きは目立たない。新世代のお家騒動が耳目を集めた。新世代所属のイラク国民議会の議員 2 名が、党指導部は親族の事業と政治を分離していないと批判した[22 日、ルダウ]。新世代は KDP と PUK に代表される有力家系が権勢をふるう政治構造の変革を主張し結成された政党である。彼らによれば、指導者シャスワル・アブドゥルワヒドの姉であるサルワ・アブドゥルワヒドが党内議論無く要職についた。彼女は昨年イラク大統領候補にも名乗りを上げていた。そして党を親族会社の利益誘導装置にしているということだ。一方批判の的であるサルワは一連の騒動を KDP と PUK による陰謀だとツイートした[25 日、@srwa_qadir]。こうした経緯により党結成の理念が蔑ろにされていると、2 名の議員は党の批判に踏み切った。24 日には、同党の女性議員が報道陣にスマートフォン画面を見せ、指導部より脅迫のメッセージが送られたことを明かした[24 日、ルダウ]。新世代指導部は 25 日、党を批判した 2 名の議員の党員資格を停止すると発表した[25 日、ルダウ]。シャスワルは自身が所有する企業グループ傘下のメディアの番組に登場し、2 名の議員の告発内容を否定した[25 日、NRT]。クルディスタン地域のクルド人解放闘争は大衆的な基盤に支えられたものより、有力部族に率いられたものが主流になった。その構造の批判者でさえ親族を頼りにする誘惑から逃れるのは容易ではない。最もシャスワルは始めから

権益保護のため政界進出した可能性が高い。クルディスタン地域政治の負の歴史に新たな 1 頁が加わろうとしている。

キルクーク問題

‣IS 掃討に進展

IS は 2017 年 12 月のモスル陥落でイラク領内の「領土」を喪失したとされる。その後もキルクーク周辺の山地を中心に潜伏を続け、暗殺や誘拐といった奇襲戦術で住民の恐怖に陥れている。27 日にはクルド人住民の集団が IS 戦闘員に待ち伏せされその内 1 名が人質に取られる事件が発生した[27 日、ルダウ]。

2017 年 10 月にイラン傘下の民兵がキルクークを奪取してから情況はさらに悪化している。IS が混乱に乗じて活動を活発にし、民兵勢力とイラク治安部隊は治安維持に失敗した。長く現地の治安維持に努めたペシュメルガ撤退の代償は計り知れない。IS 戦闘員が白昼堂々歩き回る姿も目撃されている。

イラク中央政府と KRG の緊張緩和により、イラク治安部隊とペシュメルガの共同作戦のための協議が再開され、IS に打撃を与える掃討作戦実施の余地が生まれた。イラク対テロ部隊は 11 日、バグダッドとキルクークの中間に位置する山地ハムリンで IS 掃討作戦を開始したと発表した[11 日、イラク対テロ部隊]。部分的な掃討作戦ではほとぼりが冷めてから拠点を再構築することができる。それゆえ本作戦ではテロ組織の拠点が点在すると思しき地域を完全に制圧し、IS のテロ行為継続能力を破壊することを目的としている。イラク対テロ部隊は 14 日、同作戦で IS の指揮官を殺害したと発表した[14 日、クルディスタン 24]。

クルド治安当局は 11 日、キルクーク方面で IS 戦闘員の輸送に協力していた男を逮捕したと発表した[11 日、ルダウ]。当局はテロリストの郵送手段の破壊は IS の活動への大きな打撃になると語った。テロリスト数人を殺害するより IS 存続のための「インフラ」破壊の効果は大きい。

‣紛争解決への道

キルクークの安定化には IS の掃討だけでなく、民族紛争の解決も欠かせない。KRG 前大統領マスード・バルザニは先月末、キルクークのテュルクメン政党代表と会談を行った[1 日、クルディスタン 24]。テュルクメン政党代表は、バルザニの少数民族保護に対する姿勢を評価した。その 2 週間後に、KDP とテュルクメン政党、キルクーク市政評議会メンバーは、キルクークの諸問題の解決に向けて合意したと発表した[13

日、クルディスタン 24]。サダム・フセイン時代の負の遺産である農地関連法案の撤廃も含まれている。一連の動きはキルクーク問題解決の機運を盛り上げるものの、キルクークを勢力圏と見なす PUK はどう捉えるか。PUK は KDP がキルクーク問題をイラク中央政府含めクルディスタン地域外の勢力との交渉材料にすることを批判している。PUK は今月末の時点で KDP と新政権樹立交渉では合意にほぼ達したと見られるが、キルクーク問題についても協調できるかが問われる。

イラク議会はトゥズ・フルマトゥにおいて国民和解委員会を設立した[20 日、バスニュース]。トゥズ・フルマトゥは 2017 年 10 月のキルクーク占領に先駆けて、PUK のペシュメルガとイラン傘下の民兵が衝突した舞台だ。クルド、テュルクメン、アラブが居住し紛争が繰り返されてきた。クルド側はこの委員会においてイラン傘下の民兵による破壊行為の補償も求めていくという。

イラク中央政府と KRG の間のキルクーク紛争解決には石油問題の解決が必須だ。イラク石油相タミル・ガドバンは 25 日、近く KRG 側とキルクークの石油輸出問題や連邦政府予算案について協議する予定だと発言した[26 日、クルディスタン 24]。イラク中央政府はキルクーク産原油の増産を目指している。イラク中央政府関係者は先月製油所新設案を口にした。懸案はキルクーク産石油のトルコへの輸出である。イラクはトルコが KDP を篭絡し得た利権にメスを入れようとしている。クルディスタン労働者党(PKK[4])系メディアは、トルコに降りかかる試練と題した分析記事を発表した[25 日、日報]。内容を要約すると、トルコは IS 問題以来イラク政府との合意形成を経ることなく、KRG と勝手に合意を結び不当に安い石油を輸出してきたが、イラク中央政府はこれに終止符を打つべく動くということだ。そのような折にトルコ外相チャブシオールは 29 日、ヘウレル(エルビル)を訪問し KRG 首相ネチルワンに新たな国境開通を持ち掛けた[29 日、ルダウ]。トルコからの投資も増えるという誘い文句に KRG 側は勿論乗り気だ。トルコはイラク中央政府に対する後ろ盾として KDP を篭絡してきた。キルクークを巡る交渉はトルコの影がある限り一筋縄ではいかない。

トルコの侵略行為

トルコは PKK 掃討を名目にイラク領内で空爆を続けている。トルコの空爆は PKK 関係者の殺害のみを狙ったものではなく、クルディスタン地域住民一般にトルコへの恐怖を植え付けることを目的としている。トルコへの畏怖は PKK への敵意に繋がると無邪気に信じトルコ領内での失敗を繰り返しているのである。それゆえトルコは住民への被害を厭わなくなっている。

クルド系メディアはトルコの空爆に怯えるヘウレル北方の村長の声を伝えた[9 日、ルダウ]。ある村民は PKK のゲリラ戦が成功しトルコ軍に損害が出たことで、報復の攻撃が強くなっているのではないかとの観測を述べた。トルコの無差別爆撃は難民生んでいる。ドホークのクリスチャンが住むシャラニシュ村では多くの村民が家財道具と共に避難した[13 日、ルダウ]。同じく地元役場が生徒への被害を懸念して学校の閉鎖を決定した[18 日、バスニュース]。

4　クルド語名、Partîya(党) Karkerên(労働者たちの) Kurdistanê(クルディスタンの)の略。日本のメディアで散見される「クルド労働者党」の呼称は誤り。

ロジャバ（西クルディスタン、北シリア）

Rojavayê Kurdistanê

ジャジーラの

嵐

▸IS の復讐戦

人民防衛隊（YPG[5]）を中心とするシリア民主軍(SDF[6])が主導するデリゾールにおける IS 掃討戦は先月最後の拠点バグズの陥落をもって終了した。バグズでは IS 降伏後も洞穴他隠れ処の探索が継続している[2 日、シリア人権監視団]。IS の拠点喪失は脅威の終焉を意味しない。IS 存続の余地は大いに残されている。SDF とトルコの対立である。IS はゴキブリの如く諸勢力の対立の僅かな間隙に入り生存する。トルコは難民含めたシリア国籍保持者に金銭を渡し SDF 占領地で破壊工作をさせている。IS 残党はその恰好の先兵となる。暗殺や治安部隊との戦闘、またその末の自爆事件が相次いでいる[4 日、シリア人権監視団]。IS の住民の生活再建にも暗い影を落とす。SDF が住民への帰還を許可した直後に 3 人が死亡する爆弾テロが発生した[16 日、シリア人権監視団]。SDF の支配地が広がることを快く思わないアサドにとっても IS が治安を乱すのは願ったりな状況だ。

IS の”カリフ”バグダディはバグズを喪失した IS を鼓舞するかのように突如生存していることを明らかにした。29 日、5 年ぶりに自称カリフ・バグダディが登場する映像を公開した[29 日、ロイター]。イラクではモスル解放作戦の前に暗殺の情報が繰り返し流され、ロシアはバグダディの空爆による殺害を示唆していた。こうした死亡説は否定された。ボコハラムのようにテロ組織が指導者の影武者を養成する例はあり、周到な宣伝戦略を張り巡らす IS も 2 代目、3 代目バグダディを養成していた可能性は否定できない。元々バグダディは IS で象徴的な意味しかもたなかった。IS が壊滅の瀬戸際にありながら活動を活発にする今、テロ

5　人民防衛隊のクルド語、Yekîneyên(部隊) Parastina(防衛) Gel(人民)の略。

6　シリア民主軍の英語名 Syria Democratic Forces の略。彼ら自身はアラビア語名 Quwwāt(部隊) Sūriyā(シリア) al-Dīmuqrāṭīya(民主的)の略 QSD をよく用いる。またクルド語では Hêzên(「力」すなわち軍の意) Sûriya(シリア) Demokratîk(民主的)を略して HSD と呼ばれる。

活動を継続する戦意を削ぐためにもバグダディの身柄確保は完全壊滅を達成するため大きな意義を持つことになった。

‣捕虜問題

IS 捕虜問題に新たな展開があった。IS の捕虜が脱走している、または SDF が IS 捕虜を解放している憶測である。SDF のデリゾールにおけるデリゾール軍事委員会は 3 日、IS の捕虜が脱走したという情報を否定した[4 日、クルディスタン 24]。5 日には IS 捕虜の集団が脱走を試み失敗したと報じられた[6 日、ルダウ]。トルコは IS 捕虜の管理に苦労する SDF の足元を見たプロパガンダ作戦を展開する。トルコは SDF の占領地域にトルコ主導の安全地帯を設立すると息巻いており、SDF が治安回復に失敗するのを待ち望んでいる。元 IS の指揮官がラッカ近郊で交通警察として使われているという情報も流れた[17 日、シリア人権監視団]。こういった怪情報が流れる背景には SDF は解放後の秩序回復のため全ての IS 関係者、協力者に厳しい措置を取ることはできない事情がある。占領統治には部族の協力が欠かせず、その中には IS に協力したものもいるからだ。

SDF 側に IS の脱走を黙認するメリットがあることは認めざるを得ない。IS は 20 日、アサド政権勢力に数次の奇襲攻撃を仕掛け約 50 人を殺害した[21 日、シリア人権監視団]。IS のテロリストを逃がせば別の場所で敵対勢力を牽制してくれるからだ。2016 年 8 月にマンビジュが解放された際、SDF は IS に退去の猶予を与えた。その際撤退した戦闘員たちはアルバーブで再編成され、同年 7 月にトルコがシリア侵攻作戦「ユーフラテスの盾」を発動するとトルコ軍に対する強力な盾となった。トルコは IS の頑強な抵抗に直面しアルバーブ占領を年内に完了できなかった。

ユーフラテス東岸地域

‣トルコ軍侵略の危機

トルコはユーフラテス川東岸に侵攻すると言明して以来軍事行動は起こしていないものの、国境の兵力を増強し軍事挑発を継続する。一方でトルコ軍による安全地帯の設立という毒まんじゅうをアメリカに差し出している。サリフ・ムスリムはクルドメディアに対し、トルコと交渉の余地はないとの立場を改めて表明した[11 日、クルディスタン 24]。SDF 司令官は中東専門サイトにアメリカからトルコ案を受け入れるよう圧力を受けていることを明かした[15 日、アルモニター]。トルコはかなり強硬にアメリカ側へ SDF に圧力をかけるよう迫ったことが伺える。アメリカは最小限のトルコ軍兵力を国境に配置するだけと説得しているようだ。これは国境沿いの北シリア連邦中心都市カミシュロ、抵抗の象徴コバニを手放せと要求しているに等しい。アメリカの弱腰はシリア特別大使がブレット・マクガークからジム・ジェフェリーに代わったことが大きいだろう。彼はまだトルコのテロ支援や軍事挑発の実態を肌身で感じていない。戦争になるような事態は避けねばと通常の対応しているだけだ。一方でアメリカは SDF の武装強化は継続する。1 日早々有志連合の補給部隊がシリアに入域したことが確認された[1 日、シリア人権監視団]。月内に 9 回の補給が行われたことが確認されている。

クルド側は断固としてトルコへの妥協を拒絶する。しかしこれを強情と批判するのは的外れだ。トルコにシリアの治安維持はできないのである。トルコの不始末はイドリブの非武装地帯、占領地アフリン、ジャラブルス、アルバーブで散々見せつけられてきたことだ。SDF が血を流しテロ組織から解放した地域がトルコ占領下になったらまたテロリストが跋扈することになる。アメリカ軍が関与すれば話は別だがトルコは単独警備を固辞する。北シリアにおいてアメリカ軍部隊は事実上トルコの敵対勢力であり、トルコ世論としてもアメリカとの共同警備は認められない。

フランスが対トルコ同盟の一角に残り続けると改めて確認した。フランス大統領マクロンは 19 日、北シリア代表団を招き会談しフランスは SDF を支援していくと約束した[19 日、フランス 24]。トルコ外務省報道官はマクロンがシリアの PKK 支部代表を迎えたと非難する声明を発表した[19 日、自由]。トルコ国営通信は、シリアのテュルクメンはマクロンを非難すると報じた[20 日、アナトリア通信]。見出しだけを見るとまるでシリアのテュルクメンがマクロンの決定を拒否しているように見える。実際は何のことはないシリア・テュルクメン協会がマクロンを非難する声明を出したという取るに足らない内容だ。このシリア・テュルクメン協会はシリアに住むテュルクメンの一部を代表するに過ぎないトルコの傀儡勢力である。

マンビジュ(Minbic)

トルコの警備

マンビジュもまたトルコが侵攻を表明して以来テロが増加している地域だ。シリア人権監視団は、ユーフラテス川東岸地域とあわせて 33 週間で 270 人以上がテロの犠牲になったと概算する[7 日、シリア人権監視団]。SDF の一角を占めるマンビジュ軍事委員会(MMC[7])はトルコが仕掛ける破壊工作に対策を強化している。MMC は 10 日、バイクに仕掛けられた爆弾を無力化したと発表した[10 日、MMC]。21 日には、マンビジュ東方で地雷を設置していた男を逮捕した[21 日、MMC]。

MMC はこの男がマンビジュー帯の治安を紊乱する目的をもって地雷を設置していたと発表した。つまりトルコが雇った。MMC の対策は効果を上げているものの、背後に大国がいるテロ攻勢を防ぎきれるものではなく、侵攻を目指す地域に混乱状

7 英語名 Manbij Military Council の略。クルド語では Meclîsa(会議) Leşkerî(兵士) ya Minbicê(マンビジュ)。彼ら自身はアラビア語名 almajlis(会議) majlis manbij leaskari(兵士)を用いる。正式名称は「マンビジュ並びに郊外防衛のための軍事委員会」。

態を生み出すというトルコの目的は一定程度達成されている。トルコはシリア難民を工作員として使っているため、SDF もある程度強硬な対応をせざるを得ない。SDF はこうした工作員と協力したと思しき住民を逮捕しているとされる[22 日、シリア人権監視団]。SDF と住民との軋轢もトルコ軍進駐への地ならしだ。

‣傭兵勢力との衝突

トルコは傘下の傭兵勢力に軍事挑発を行わせている。その最前線はマンビジュ北方に位置するサジュル川である。両軍は厳重な警戒態勢を敷いており衝突の余地は少ない。別の方面から挑発を仕掛けている。MMC とトルコ傘下の傭兵勢力は 8 日、マンビジュ東方のアルバーブ方面で小競り合いになった[8 日、シリア人権監視団]。トルコ寄りのシリアメディは同日トルコの無人偵察機が頻繁に飛行していたと報じている[8 日、シリアの声]。偶発的な衝突ではなく、トルコ軍は戦闘が拡大すればすぐさま介入しようと待ち構えていたことを示す。

アフリン(Efrîn)

‣トルコの過酷な統治

アフリン住民はトルコのクルド人敵視政策に基づく過酷な統治に喘いでいる。トルコは SDF とは関係ないクルド人も大量に逮捕している。アフリンにおけるクルド人評議会の指導者を逮捕した報じられた[3 日、シリア人権監視団]。トルコ傘下の傭兵勢力の乱暴狼藉への対策を訴えたことが反抗的とみなされたのであった。トルコはクルド人の指導者層の掌握に失敗していることを示す。

トルコ傘下の傭兵勢力は住民に対する身代金目当ての誘拐と暴行を繰り返している。29 歳の青年がトルコ傘下勢力の拷問により死亡するという事例はその典型的なものだ[7 日、ユーフラテスニュース]。彼はトルコ傘下の傭兵勢力に逮捕され激しい拷問を受け続けた。それは何か情報を聞き出すためではなく、彼の状態を悪化させることで家族に身代金を早く用意させるためになされたのであった。身代金が支払われ彼は解放されたがその時既に心身ともに深刻なダメージを受け死亡に至った。北シリア統治の最高機関シリア民主会議(MSD[8])は 27 日、改めてトルコはアフリンで民族浄化を行っていると声明を出した[27 日、ロナヒテレビ]。

‣クルド人による抵抗運動

SDF はトルコによる占領を未だ容認していない。SDF 幹部はアフリン解放作戦を行う方針を明らかにしている[1 日、情況]。クルド側はトルコの抱き込みを狙うロシアが牽制する中、住民の支持を背景にゲリラ活動を継続している。先月 31 日に続いて 1 日早々からトルコ傘下の傭兵を殺害したと報告を開始した。SNS では傭兵の死体や鹵獲した武器の画像含めゲリラ活動の活発な投稿が続いた。クルド側のゲリラ活

8　クルド語の正式名称 Meclîsa(アラビア語で会議の意) Sûriyeya(シリア) Demokratîk(民主主義)の略。英語名 Syrian Democratic Council's の略称 SDC も使われる。

動の活発さは敵方のトルコ傘下勢力の発信内容からも伺える。東方の自由民は 8 日、民主統一党(PYD9)の攻撃を受けたと SNS で発表した[8 日、東方の自由民]。

RPG7による攻撃を受けたとされる荷台に風穴の空いたテクニカルの写真を公開した。傭兵勢力はいつクルドゲリラに襲われるか分からないという恐怖と隣り合わせになりながら生きている。周囲の住民は自らの傍若無人な振舞いにより敵と化している。ゲリラ活動は占領に致命的なダメージを与えることはできないが、敵を疲弊させるという役割は十分に果たしている。

アフリン地区に隣接するタルリファットがクルドゲリラの補給・出撃拠点となっている。トルコ軍は 15 日、クルド勢力の攻撃に対する反撃だとして同地を砲撃した[15 日、アナリスト通信]。タルリファットはロシアがトルコの勢力伸長を認めていない。19 日には、トルコ軍と傭兵勢力がクルド勢力とアサド政権勢力を攻撃したと報じられた[19 日、アラブソース]。戦闘は小競り合いで収まった。

クルド勢力はトルコ軍による自国領土の占領を容認しないアサド政権を利用する。トルコ国営通信はクルド勢力がアサド政権やロシアとの協力を継続していると報じた[18 日、アナトリア通信]。特に決定的な情報は提示されていないがクルド勢力占領地域にアサド政権勢力が展開していることを問題視しているのが目を引く。アフリンはクルド勢力以外煩わしい存在がなかったので簡単に侵攻できたが、背後にロシアがいるアサド政権勢力は簡単に攻撃できないというエルドアンの苛立ちが文面から伝わってくるようである。

トルコ占領地域では傭兵勢力同士の戦闘が発生する等支配は揺らいでいる。クルドゲリラの活動が少ないアザズで 15 日、トルコ傘下の政庁前で爆弾テロが発生した[15 日、シリア人権監視団]。トルコ軍の取締に住民が怒ったことが起因になっている。トルコ占領地域には IS の敗残兵も相当数流入している。IS はトルコの従順な工作員ではない。抜け目ない IS はトルコの支配の綻びに乗じてテロでトルコを揺さぶろうとする。IS はトルコの手の内も知っている。

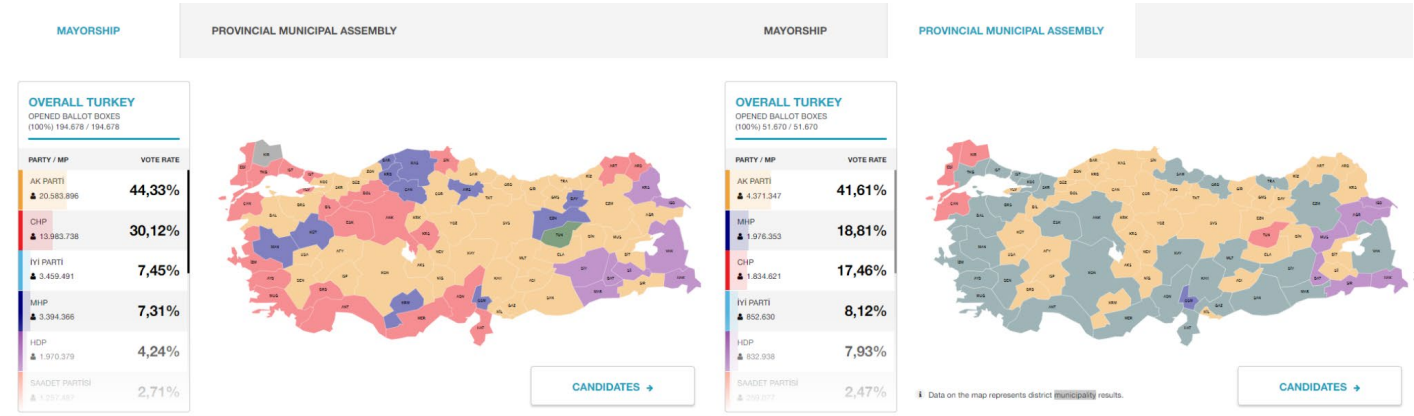
9 PYD—民主統一党のクルド語、Partîya(党) Yekîtiya(統一) Demokrat(民主)の略。

北クルディスタン（トルコ領南東部）

Bakurê Kurdistanê

統一地方選

▸AKP の大敗北



先月末に統一地方選が行われ、開票結果は今月に入り発表された。与党と同盟を組む極右政党指導者バフチェリは、トルコの失敗を狙う外部勢力の陰謀は失敗したと発言した[1 日、自由]。しかし政権与党公正発展党(AKP[10])の連合にとって大敗といえる結果であった。クルド系政党人民民主党(HDP[11])は、メディア、軍、警察を総動員した選挙妨害を受けた。それでも知事選において HDP は最大都市アメド、国境の諸県を死守した。AKP

10 Adalet ve Kalkınma Partisi の略。

11 トルコ語の党名、Halkların(諸人民または国民の) Demokratik(民主主義) Partisi(党)の略。 Halk はアラビア語で人民を意味する halq に由来する。

は国境の県シルナフ(シルナク)を奪取できたことに沸いていた。御用メディアはシルナフで予想外の勝利と AKP を持ち上げていた[3 月 31 日、スター]。シルナフで不正投票が行われた疑惑がある。HDP は SNS 上でトルコ軍車両がシルナフを出ていく様子を公開した[1 日、HDP]。AKP はシルナフで他地域から動員された軍人、警察官が不正投票を行わせていた[1 日、ユーフラテスニュース]。

今回最大の衝撃はイスタンブル市長選の結果だろう。イスタンブル市長選は首相は落選するという AKP にとって最悪の結果となった。候補者は元首相ビナリ・ユルドゥルムである。エルドアンは首相職を廃止したことで肩書を失ったユルドゥルムに、ポストをあてがうくらいの気持ちであったのだろう。イスタンブルは早くから CHP のイマモウル有利との速報が出ていた。HDP アダナ選出大国民議会議員ケマル・ペコスは、「コバニは落ちなかったがイスタンブルは落ちそうだ」とツイートした[1 日、@kemalpekoz]。AKP は有効な経済政策を打ち出せなかった。HDP が投獄中の元共同代表デミルタシュ筆頭に野党との候補者調整を呼びかけたことも大きい。また AKP は選挙妨害のリソースを HDP に集中させたことで他の野党の躍進を許した。AKP は結果を巡る論争の中で選挙制度の軽視と往生際の悪さをこれでもかと見せつけた。AKP は早速自党への投票が他党への投票して数えられたと言い立てた[1 日、アナトリア通信]。トルコ選管は AKP の要求を受け入れ票の数えなおしが行われることになった[3 日、スター]。再集計によって AKP の得票数は僅かに増えた[4 日、CNN トルコ]。それでもイマモウルの優勢は変わらず市長選勝利が確定した[7 日、旅]。AKP は再選挙を求めるようになった[9 日、NRT]。選挙を無効にするためクーデター騒動以後に公職追放された人々の投票を無効にするよう求めたがこれは選管に拒否された[23 日、自由]。

CHP 党首クルチダロールは選挙結果について人々は民主主義を選んだと述べた[1 日、自由]。AKP の実質的敗北をもってトルコに民主主義が戻ったと評価するのは早計だ。エルドアンによってトルコの国制は変質させられてしまったからである。国内にはエルドアンと利害を共にする大量の民兵組織が存在する。今回の選挙はトルコの新たな危機の始まりである。一方のクルドにとっては二度とない好機の到来だ。

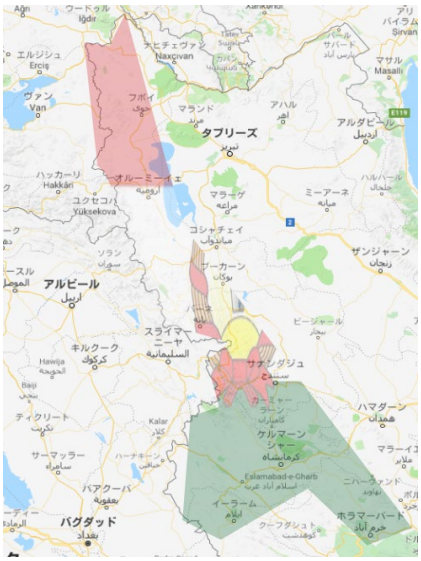
›HDP への不当措置

選管は HDP 当選者の任官を遅らせるという措置に出た[10 日、情況]。選管はクーデター騒動後の非常事態宣言下においてテロ容疑をかけられた候補者の当選資格をはく奪すると発表した[12 日、ルダウ]。HDP 関係者は政府の恣意で「テロリストのプロパガンダを拡散した容疑」にかけられている。かなり多くの当選者が資格を失うことになるのである。これにはクルド人も激怒し「有権者の意志を尊重せよ」と抗議運動が行われた。

AKP はマルディンで当選したアフメット・テュルクを「老齢で病気がち」だとし当選資格をはく奪する求めたが、これは選管に却下された[12 日、トルコ詳報]。アフメット・テュルクは 15 日、正式に当選通知を受け取った[15 日、メソポタミア通信]。トルコ選管は明らかに公正さを欠き AKP。選管の体裁を保てない程のあまりに恥知らずな要求ははねつける。

東クルディスタン(イラン領西部)

Rojihilata Kurdistanê



アメリカとの対立

アメリカはイランに融和的だったオバマ政権からトランプ政権になり、イラン核合意の破棄に制裁強化と対イラン政策を 180 度転換した。「法学者の統治」に綻びが見え始めたことで本格的な体制転換に向けて動きだしたとも言われる。アメリカの動向はクルド人の運命も大きく左右する。

アメリカは 8 日、イスラム革命防衛隊をテロ組織に指定すると発表した[8 日、ルダウ]。東クルディスタンはイラン・イラク戦争の激戦地だ。防衛隊は戦争を利用し戦時の経済統制の名の下に多くの私企業を接収したことは知られている。東クルディスタンでは防衛隊の横領もまた激しかった。防衛隊に対する怒りは他地域よりも強い。防衛隊がテロ組織となれば、それに対する武装闘争は「テロとの戦い」になる。クルド人武装勢力に強力な重火器が供給されることなる。イラク側の KRG は親米勢力なので補強路構築は容易い。

自然災害

東クルディスタンは自然災害の多い地域だ。2017 年冬にも大規模な地震が発生し多くのクルド人が家を追われた。イラン当局は十分な支援を行わないことにクルド人はいつも怒りを募らせる。1 日、ケルマンシャ州をマグニチュード 5.2 の地震が襲った[1 日、バスニュース]。幸いにも被害は軽微であった。深刻なのはクルディスタンとアラビスタンを襲った洪水だ。40 万人以上が避難を余儀なくされたとされる[7 日、アルジャジーラ]。PKK は洪水に対処しないイラン当局へ行動を起こすよう呼びかけた[5 日、ユーフラテスニュース]。

文責:並木宜史